

心霊写真

川崎ゆきお

住職は心霊写真のお祓いを受け付けている。

依頼者は写真やフィルムと一緒に料金を郵送してくる。そういう写真の捨て場のようなものだ

。

住職はまだ若い。心霊写真の鑑定家ではないし、写真やカメラに詳しいわけでもない。

ある日、近所の女子中学生が遊園地で写した写真の中に、知らない人が小さく写っていた。背景の木の葉が顔のように見えるのだ。中学生や親が気味悪がり、お寺に持ち込んだ。

それがきっかけとなったのか、そういうことを全国規模でやれないものかと考えた。

一応寺の住職であり、悪い立場ではない。

特に専門知識は必要ではない。届いた写真を前にお経を唱えて燃やせば済むことだった。

フィルムカメラからデジカメ時代になっていたが、データーでは受け付けなかった。

心霊写真は週に数枚届く。結構な収入になる。

届いた写真は一応は目を通す。霊がいる箇所や、おかしい箇所は手紙にも書かれているが、最近では簡単に分かるようになった。

その中に、全く分からないものがあった。手紙にも書かれていないので、どこに霊がいるのかが分からない。

どうせ、ここは心霊写真の捨て場なのだから、見つけれなくてもかまわないのだ。

それでも気になった。

住職は意地になった。今まで見てきた経験が活かされない。それが悔しかった。

しかし、それらしいものが写っていない写真もある。手紙には帽子をかぶった中年男がいると書かれてあるが、いくら見てもいなかった。送ってきた本人だけが見えるケースもあるのだ。

それと同じパターンだと思うのだが、なぜか気になる。

その写真は公園の花壇を背景に小さな子供が写っていた。まさかその幼女が霊ではあるまい。そうだとすれば、怖すぎる。

幼女が笑っている。あどけない笑顔だ。それが...と考えたとき、住職は背筋が寒くなった。

気になるので、送り主に手紙を出した。

数日後、返事が着た。

それによると、背景の花壇にホームレスが寝転んでいるのに気づかずに娘を写したらしい。

そのホームレスが写真に写っていないので気持ちが悪くなり、処分を頼んだようだ。

了